

「顧問と生徒が一丸となって」

湯本高等学校校長 二瓶 晃一

放課後になるとよく校長室に、数キロ先まで聞こえそうな張りのある声が聞こえてきます。校長室からは生徒の姿は見えません。しかし、その張りのある声から、生徒たち一人ひとりがスポーツに一生懸命に取り組んでいるのがわかるような気がします。その声が聞こえると、私の背筋も伸びてくるように感じます。それが本校のサッカー部です。

本校サッカー部は平成17年度の全国高校サッカー選手権大会への出場を始め、県大会での上位入賞等多くの実績を残してきました。このことは、これまで本校サッカー部に係わってきた顧問の先生方の熱心な指導を始め、生徒諸君が真摯にサッカーに取り組んできたことや保護者の方々のご支援のお蔭であると感謝申し上げます。

私はこの記念誌の原稿を書くにあたって、サッカー部関係の過去の資料を探しました。すると、本校のサッカー部を同好会として立ち上げた高橋琢弘先生が「湯本高校50年史」の中で、次のように述べられているのに出会いました。

次に、愛好会に昇格し、部費は認められないが、公式試合に出られるということが生徒総会で決まったときの感激は、今でもはっきりと覚えています。次は部への昇格ですが、この頃が湯高サッカー部の一番生き生きしていた時期ではなかったかと思います。生徒達が一丸となって、夢中で頑張った時期でした。そして、うれしいことに、当時の生徒のひとりが、現在教師となって母校湯高で後輩の指導にあたっていることです。

これを読んで私は、高橋先生のサッカーを愛する気持ちはもちろんのこと、生徒と一緒に泥まみれになって指導している姿が目に見えました。そしてサッカーを愛する生徒たちが、サッカーができる喜びを感じながら生き生きボールを追っている姿も目に見えました。

恐らく、現在も創立時の精神と変わらないと思います。サッカーを愛する顧問と生徒が毎日一生懸命に練習に励んでいます。試合に勝った時にはともに喜び、負けた時にはともに悔しがり次の勝利に向けて気合を入れているはずです。

今後も本校サッカー部が、サッカーを愛する顧問と生徒たちにより、60年70年と歴史を刻んでいくことを期待しています。そして、湯本高校サッカー部は、顧問と生徒が一丸となって、夢中で頑張れる場であることを願っています。